

## 瀬戸内タウンミーティング（長浜地区）

平成 22 年 11 月 16 日（火）19 時～21 時

牛窓町公民館長浜分館

参加者：男性 14 人、女性 2 人、計 16 人

議 員：厚東

出席者：市長、総合政策部長、政策調整課 2 名

### 市民から出た意見と市長の回答

・長浜は、瀬戸内市内で唯一、無医の小校区である。行政がどこまでできるか難しい点もあると思う。テレビ報道でも医師は都会の病院に流れているというのも目にした。しかし、地域の高齢化も進み、高齢者は不自由を感じている。診療所でもよいので現状の無医状態を解消できないか。

（市長）長浜の人は、どこの病院・医院にかかっているか。

・内科は比較的近い場所にある開業医、整形外科は市外の病院が多い。車に乗れば数分で行けるが、高齢者はそれができない。市民病院にはなかなか足を運びにくいという意見も聞いている。

（市長）診療所を誘致する方法と、乗り合いバス・タクシーなどで足を確保する方法とが考えられる。

・交通手段としては、タクシーで通院しているケースもあるが、牛窓から呼ばなければいけない。費用も負担となっている。

（市長）足を確保する方向で考えたい。できれば今年度、無理なら来年度、乗り合いバス・タクシーの試験運行をやりたいと思っている。

・週に 2～3 回、孫を連れて夫婦で市内の図書館に行っている。牛窓・邑久・長船の 3 箇所とも利用している。風景的には牛窓がいちばんよい。しかし、マナーがよくない。小さい子どもを連れてきて騒いでいるのを見かける。また、邑久・長船は本をそこで読もうという気にならない。スペースが広く、司書がもっと親切で、また子どもはせめて小学生くらいから、それ以下の子は遠慮する方向で検討してほしい。ただ、どこで借りた本でも市内の図書館ならどこでも返却できるのはありがたい。

（市長）子どもの声の問題は、スペースを分けることで解決できるが、現在の広さでは難しい。いただいたご意見も参考にしながらどのような図書館をつくるかを考えたい。

(市長) オリーブ団地は、今年度の販売目標は 12 区画だったが、すでに 10 区画販売できた。2 期工事も終了し、12 月から販売予定。関西から来られる方が多く、魅力に感じていただけているようだ。さらによい知恵などがあれば教えていただきたい。

・議会だよりに掲載されていた、師楽地区のクリーンセンターかもめに行く県道の拡幅はどのような進捗状況か。

(市長) 地権者の同意が得られれば進められるが、問題が複雑で同意が得られていない状況である。

・クリーンセンターかもめの改修工事が始まるまでに拡幅してもらいたい。

・寒風陶芸会館の改装をしているが、今後どのような形でやっていくのかお聞きしたい。

(市長) 展示室の改装が終わり、このほどリニューアルオープンした。地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたい。協力できる範囲は人それぞれだと思うが、地域の方・陶芸家の方にもできる範囲でご協力いただいて、来年度以降新しい方向性を出していきたい。訪れる人が少ないのが問題と思っている。

・11月20日(土)から、毎週土日に、試験的に野菜を販売することにした。また、旭川荘の入所者の方の作品も少しずつ販売する。寒風陶芸会館の職員の方は非常にやる気を持ってされているので、地元としてもぜひ協力していきたい。また、市立美術館への行き帰りのルートに寒風陶芸会館も入れてもらえるようにしてほしい。

・東備バスの現在のルートでは、本庄南のバス停からしばらく家が1軒もない。旭川荘から陶芸会館を通るようなルートに変更してはどうか。多少遠回りになるが、集客に結びついてよいのではないか。

(市長) 野菜や作品の販売は、よいことだと思う。バスルートについても検討したい。

・さきほどの総合計画の説明では、合併特例債を借りてハコモノを建てるという話だったが、早い時期に合併した自治体では3割負担だからといって安易に借りて、行き詰っている自治体がたくさんあるように思う。慎重に検討してほしい。

ごみ減量化で、その他プラスチックの分別が難しいと言われたが、食品を購入してもプラスチック包装が非常に多い。白色トレイは回収しているが、色つきトレイは回収していないので燃えるごみに出している。たとえ時間がかかっても、分別をもっと徹底してやるべきと思う。また、市は市民に分別を

徹底するよう周知していく立場なので、収集が難しいといった考えでは減量は難しいのではないかと。

(市長) まず、合併特例債の利用については、建物を建てるためには建設費とは別に維持管理費がかかる。試算は、維持管理費も含めたものでつくっている。ただ、必ず必要なものについては、今建てておく必要がある。その他プラスチックの回収は、可能だが収集コストや収集形態について、関係者との調整も必要になる。ただし、意識の高い市民の方を増やすのは市の役割と考えている。

・9月20日に、生活環境課の出前講座をお願いしたところ、わかりやすく、非常に有効だった。聞いてみて意識が変わって、自宅でもぞつ紙の分別を始めた。自治会などでもっと活用すればよいと思う。

(市長) 担当課の生活環境課や、出前講座の窓口の公民館などからのアプローチの方法を考えたい。